

第 59 回日本口腔衛生学会

2010 年 10 月 6～8 日（水）～（金）

新潟、朱雀メッセ

抄録締め切り：6 月 10→18 日（木）（正午）

タイトル：南太平洋トンガ王国ババウ諸島
における学校歯科保健アプローチ

～3 年目のフォローアップ調査結
果～

50 文字（全角）

本文：1700 文字（全角）

【要約】南太平洋トンガ王国ババウ諸島の小学生を対象に、2007 年より開始した学校歯科保健プログラムの効果を再評価するために、2009 年 11 月、現地を訪問し、小学校 3 年生の歯科検診および口腔衛生と食の実態に関して、口頭質問調査を行った。その結果、西洋食化は進み、兄弟姉妹の数が多いため保護者のケアには期待できない環境下で、こどもたちの意識の中に口腔清掃習慣の定着がみられ、DMFT の増加率は減少し、学校歯科保健アプローチの成果が認められた。

【目的】南太平洋トンガ王国ババウ諸島では、慢性的に医療関係者が不足している。2007～2009 年 3 月までの 2 年間、現地に滞在し、JICA ボランティア小児歯科医師として協力支援活動を行った。小学生のう蝕有病者率が 97%と高かったため、トンガ人カウンターパートと共に小学校巡回歯科保健プログラム（歯磨き指導およびフッ素洗口：通称マリマリプログラム）を立案し、教育省の協力を得て、学校歯科保健アプローチを行った。2009 年 11 月、フォローアップのため現地を訪れ、小学校 3 年生を対象として、歯科検診および口腔衛生と食の実態に関する項目について口頭質問調査を

行ったので報告する。

【対象と方法】

対象：ババウ諸島の小学校全 32 校の小学生 3 年生（ババウ本島 21 校、339 名、離島 11 校、24 名、合計 363 名）、平均年齢 8 歳 1 か月。

方法：

1. 歯科健診
2. トンガ人デンタルセラピストによる口頭質問調査

内容：(1)歯ブラシの有無、(2)歯磨き習慣、(3)歯科受診の経験、(4)兄弟姉妹の数、(5)食事の摂取状況、(6)食事内容

【結果】

(1) 2009 年ババウ諸島の小学 3 年生 363 名のう蝕罹患率は 96.4%で、DMFT は 1.9、dmft は 5.5 であった。

(2) 2009 年の小学年生 363 名のうち 236 名が、2007 年（小学 1 年生時）、2008 年（小学 2 年生時）にも歯科検診を受診しており、2007 年→2008 年→2009 年の DMFT および dmft の変化は、それぞれ、0.6→1.5→1.9、8.1→8.2→5.7 であった。

(3) 全員が自分用の歯ブラシを家か学校に持っていたが、10%の子供が学校のみ歯ブラシを持ち、5%のこどもが、週に 1 度巡回指導時、学校でのみ歯を磨くと答えた。

(4) 70%のこどもに歯が痛くなった経験があり、その 4 分の 3 に歯科受診経験があった。

(5) 兄弟姉妹の数は、1～12 人と様々で、平均 5.3 人であった。

(6) 朝食は 98%、昼食は 94%、夕食は 99%、おやつは 79%が摂取していた。

各食事における主食は、パンやドーナツが朝食で 81%、昼食で 61%を占めるのに対

し、夕食では、タロイモ、ヤマイモ、タピオカなど地元で採れる根菜類が 63%を占めた。

【考察】

2007年に小学生を対象として始まったトンガ王国ババウ諸島の学校歯科保健プログラムは、私が帰国した現在も、トンガ人スタッフによって継続実施されている。プログラムの3年間の成果を再評価するために、2009年11月、再び現地へ赴き、小学3年生を対象に歯科検診と口頭質問調査を行った。

小学3年生のう蝕有病者率は96.4%と高いが、2008年3月の調査時、小学3年生のDMFTが2.8であったのに対し、2009年の3年生は1.9と、プログラムを継続している効果が認められた。

学校歯科保健プログラムは、NGOなどが

ら歯ブラシの援助を受けていることもあり、すべてのこどもが歯ブラシを持っていたが、5%のこどもは、週1回学校巡回指導のときのみ歯磨きをしていた。

歯が痛くなった経験があるものの、歯科を受診したことがないこどもが23%いた。

家族における兄弟姉妹の数は、平均5名であり、保護者を指導してよりよいケアを期待するよりも、こども本人への口腔衛生教育が効果的であると考えられた。

う蝕の原因は、食文化の西洋食化が影響していると考えられるが、夕食は伝統的な料理が主であることがわかった。

現在は、日本人歯科衛生士ボランティアがJICAより派遣され、現地においてプログラムを継続支援している。こどもたちの口腔内状況がさらに改善することを期待している。